

正しい祈りの姿勢：「赦すことについて」(24)

メッセージ・ノート 2021.8.1

マタイ 6:9-13 むしろ、こう祈りなさい。「天にいらっしゃる私たちのお父様。あなたのお名前があがめられますように。あなたの御国が来ますように。あなたの御心が天で行われるように、地上でも行われますように。私たちに毎日必要なものを、今日もお与えください。私たちに負い目のある人々を、私たちが赦しましように、私たちの負い目も赦してください。 私たちを誘惑に遇わせず、悪魔から救い出してください。御国と力と栄光は、いつまでもあなたのものです。アーメン。」(現代訳)

■ 「負い目」とは？

1. 「負い目」：【ギ】「オフエイレイマ」借金、果たすべき義務、比喩的に、日本語聖書で「罪」と訳された「【ギ】ハマルティア」(的外れ、歪みの方がその意図を汲んでいる)。聖書では、人は例外なく何らかの霊的負い目を負っているという。
2. 負い目の影響：自覚の有無にかかわらず、私たちはこの負い目がもたらす影響を被っている。それは、多くの場合、罪責感や劣等感という形で、私たちに縛り、自由を与えられているのに人生を窮屈なものにさせる。
3. 例：イエスは、不倫の現場を押さえられたという女性を石打ちの刑にすべきかと質問を受けた時、a)他人を裁くことのできるほど正しい人など一人もないこと(しばしば隠れた罪責感は、人を裁く誤った原動力となる)。また、b)人の失敗を裁くのではなく、自らを内省する機会(すなわち、赦された罪人であることを思い出し、感謝する時)としなさいと教えられた(ヨハネ 18:1-11)。

■ なぜ赦しを祈るのか？イエスの十字架により、過去も将来の過ちも赦されているのではないか？

◇ 赦されているのであれば、祈る必要はないのでは？また、記憶や自覚せずにしてしまったこともあるだろう。もし全てについて祈らないといけないとするなら、無理ではないか？それでも祈れというのはなぜか？

1. 日々過ちを犯すから：全ての罪が赦されていると言っても、私たちは日々新たな失敗(負い目を負うこと)をしてしまうので、たとえ赦されていると分かっている、罪責感の縛りを受ける。そこからの解放をいただき、前を向いて生きるために祈るのだ。

ヨハネ 13:9-10 (イエスの洗足に際して)⁹するとペテロはあわてて、「そ、それなら、足だけとおっしゃらず、手も、それに頭も洗ってください」と言いました。¹⁰「水浴した者は、足だけ洗えば全身がきよくなります。」

2. ビクビクしなくて良い：一方、自覚していないことについては、今は向き合わなくても良い。くよくよせず胸を張って生きていけば良い。

1ヨハネ 3:20 心に責められることがあろうとも。神は、わたしたちの心よりも大きく、すべてをご存じだからです。

3. 知るべき時には、聖霊が教える：ヨハネ16:8 その方が来られると、世の人に誤りを認めさせます。罪、心の正しさ、神との正しい関係、さばきからの救いについて。

だから、気が付いた時に赦しを祈る。

1ヨハネ 1:9 しかし、もし自らの罪を神に告白するなら、神は真実な方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちがきよめてくださいます。 *ヨハネの手紙は、クリスチャンに向けて書かれた。

■ 祈っても赦されたと感じない

1. 頭では分かっているが心が付いて来ない：過ちを犯し、悔い改めの祈りをするのだが、赦された感じがしない。というのも悪いとは思ってはいても、どうせまた同じ過ちを繰り返すだろうと自分の悔い改めを疑って

いる。心から悔いているというよりも、悔い改めの祈りをしておかないと、神からの罰や裁きが下るのではないかという恐れからしている。つまり、形だけの赦しの祈りになっている現実をどうしたら打破したら良いのか？

2. 祈る相手について考える：遠く離れて、冷たい神ではない。私のことを子供として愛し続ける優しい「父親」のようなお方である。

- ・ 放蕩息子の父親が息子を受け入れたのは、息子が悔い改めたからか？それとも、それとは無関係に赦したのか？
 - ・ 父親は息子がまだ遠いところにいたのに、走り寄り、抱きしめ、口づけし続けた姿を想像してみよう。
 - ・ あなたが告白の祈りをしたから、赦すという条件的なものではない。では、どうしたらもっと神に近づけるのか？
- 神に甘える(?) あなたは、神に甘えたことはあるか？甘えられない理由は何だろう？恐れ？恥？

■ どうすれば良いのか？

1. 「私が赦しましたように」とは？

- ・ × 「赦しましたから」とは言っていない。参考：「赦されるために赦す」(アーミッシュ)
- ・ × 「赦すという事実に基づいて」とも言っていない。
- ・ ○ 主の赦しの故に、私は赦さざるを得ないし、それは自然なこと(当たり前のこと)。
- ・ もし赦したくない気持ちがあるとすれば、それは、私が赦しを本当には体験していないということだ。
- ・ 参照：マタイ 18:21-34「一万タラント(二兆円)の借金を帳消ししてもらった男が、百デナリ(百万円)借りていた友人を訴えて牢獄に入れてしまったというたとえ話」
- ・ 「赦し」(【ギ】アフィエイミ)とは、相手のしたことを容認することではない。預けること。手放すこと。すなわち、神に預けて、もうそのことに縛られないこと。「変えられるものと変えられないもの」の違い。

2. 赦しは心のバロメーター

- ・ 人を赦しているかどうかによって、どこまで神の赦しの愛をいただいていたのかということがわかる。
- ・ ロイド・ジョーンズ「あなたが私にしてくださったことの故に、私は他の人をゆるします。そのように、神よ、私をゆるしてください。私がお願いするのは、同じようにゆるしてくださることです。同じ程度ではありません。なぜなら、私のすることは何事でも不完全だからです。あなたが私をゆるしてくださったのと、いわば同じ態度で、私も他の人をゆるしています。主イエス・キリストの十字架が私の心にしてくださったことの故に、私は彼らをゆるします。そのように私もゆるしてください」(P. 111~112)。

3. 自分はどこまで赦されたのか

- あなたには赦せない人がいるだろうか？もしいるとするなら、それは、神が赦してくださったこと以上の損害だったのか？それとも、神の赦しということについて実感がないのか？

ルカ 10:20 しかし、悪霊どもが言うことを聞くからといって、喜んではいけません。ただ、あなたがたの名前が天国の市民として記されていることを喜びなさい。

- イエスはここで、赦せない人が現れることがあったなら、それを自らの赦しの意味を振り返る機会とせよと言っている。あなたが今自らを振り返り、「あなたの名前が天に書き記されていることを喜ぶ」とはどういうことか？
- 私たちは、実際のところ、自分がどこまで赦していただいたのかが分かっていない。どうしたらもっとこの事実を実感できるのだろうか？